第 46 回　知的財産管理技能検定

３級　学科試験

（はじめに）
すべての問題文の条件設定において，特に断りのない限り，他に特殊な事情がないものとします。また，各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え，同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。
特に日時の指定のない限り，2023年５月１日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。
解答は，選択枝ア～ウの中から１つ選びなさい。

問１
ア～ウを比較して，意匠法に規定されている制度に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　秘密意匠制度
イ　出願公開制度
ウ　部分意匠制度

問２
ア～ウを比較して，著作権等の侵害に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　著作権の侵害者が法人の従業者である場合，行為者本人だけでなく，使用者である法人にも刑事罰が適用される場合がある。
イ　著作権を侵害するおそれがある者に対して差止請求権を行使することはできない。
ウ　著作者人格権の侵害に対し，名誉回復等の措置の請求をすることができる。

問３
ア～ウを比較して，商標登録出願に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　他人の業務に係る商品を表示するものとして需要者の間に広く認識されている商標に類似する商標であって，その商品に類似する商品を指定商品とするものについて，商標登録を受けることができる。
イ　同一の指定商品について使用する類似の商標について，同日に二以上の商標登録出願があったときに，特許庁長官の協議命令に従って協議をしたが，その協議が成立しなかった場合であっても，そのうちの１つが商標登録される場合がある。
ウ　自己の登録商標と類似する商標であって，その商標登録に係る指定商品について使用をするものについて，商標登録を受けることができる。

問４

ア～ウを比較して，特許出願の出願審査請求に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　特許出願人以外の者であっても，出願審査請求をすることができる。
イ　特許出願人は，特許出願後であっても，出願審査請求をすることができる。
ウ　特許出願人は，出願審査請求を取り下げることができる。

問５

ア～ウを比較して，著作権法における登録制度に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　著作権の登録は，権利の発生要件である。
イ　美術の著作物について，創作年月日の登録を受けることができる。
ウ　著作権の移転は，登録しなければ第三者に対抗することができない。

問６

ア～ウを比較して，パリ条約の優先権制度に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　パリ条約に規定された優先期間は，同盟国の事情により短縮することはできない。
イ　優先期間は，実用新案，意匠のいずれについても６カ月である。
ウ　パリ条約の同盟国にした最初の第１国出願に基づいて，優先期間内に他の同盟国にパリ条約上の優先権を主張して第２国出願をしたときには，当該第２国出願に係る発明の新規性などの登録要件は，第１国出願の時点で判断される。

問７

ア～ウを比較して，著作権の制限に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　著作権者の許諾を得ることなくインターネット上で配信されている，いわゆる海賊版であっても，私的使用を目的とする場合であれば，海賊版であると知りながらダウンロードして録音又は録画をすることができる。

イ　写真の撮影の際に他人の著作物が写り込んでしまったとしても，その他人の許諾を得ることなく当該著作物を利用することができる場合がある。

ウ　美術の著作物の原作品の所有者は，著作権者の許諾を得ることなく，その著作物の原作品を公に展示することができない。

問８

ア～ウを比較して，特許法と独占禁止法の関係に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　独占禁止法は，特許法による損害賠償請求権の行使と認められる行為には適用されないが，差止請求権の行使と認められる行為には適用される。

イ　独占禁止法は，特許法による権利の行使と認められる行為であっても特段例外についての規定はなく，適用される。

ウ　独占禁止法には，特許法による権利の行使と認められる行為には適用されない旨が規定されている。

問９

ア～ウを比較して，特許出願の出願公開に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　出願公開がされた後に，審査官から出願人に拒絶理由が通知されることはない。

イ　特許出願人が出願公開請求をしなければ，出願公開がされることはない。

ウ　特許出願の出願日から１年後に，出願公開されることがある。

問１０

ア～ウを比較して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　実演に関する著作隣接権の存続期間は，当該実演を行った時に始まる。
イ　レコード製作者は，譲渡権を有しない。
ウ　放送事業者は，著作隣接権に含まれる放送事業者人格権を有する。

問１１

ア～ウを比較して，商標権等に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　通常使用権は，登録しなくとも，その発生後にその商標権を取得した者に対して，その効力が生ずる。
イ　他人の商標登録出願の日前から，登録商標と同一の商標を使用し，当該出願日において，周知であれば，先使用権が認められる場合がある。
ウ　商標権を譲渡する際には，すべての指定商品及び指定役務を譲渡しなければならない。

問１２

ア～ウを比較して，同一の発明について，同日に二以上の特許出願があった場合の取扱として，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　特許庁長官が行う「くじ」により選ばれた特許出願人が特許を受けることができる場合がある。
イ　いずれの特許出願人も特許を受けることができない場合がある。
ウ　特許出願人に対しては，特許庁長官から協議命令が出される。

問１３

ア～ウを比較して，ＴＲＩＰＳ協定に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　ＴＲＩＰＳ協定では，特許権について規定されており，商標権についても規定されている。
イ　ＴＲＩＰＳ協定では，特許の対象として，物の発明に加え，方法の発明も認めている。
ウ　ＴＲＩＰＳ協定では，パリ条約の三大原則の１つである内国民待遇は規定されていないが，最恵国待遇は規定されている。

問１４

ア～ウを比較して，意匠法の保護対象として，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　物品の色彩
イ　建築物の形状
ウ　自然物の模様

問１５

ア～ウを比較して，独占禁止法に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　事業者が，特定の方法により他の事業者の事業活動を排除し，又は支配することにより，公正な競争を阻害するおそれを生じさせることは，私的独占に該当する。
イ　事業者が競争者と共同して，正当な理由がないのに，ある事業者に対し供給を拒絶する行為は，不公正な取引方法に該当する。
ウ　事業者が，他の事業者と共同して対価を決定し，公共の利益に反して，一定の取引分野における競争を実質的に制限する行為は，不当な取引制限に該当する。

問１６

ア～ウを比較して，著作権の存続期間に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　職務著作として創作された音楽の著作物の場合は，その著作物の公表後７０年を経過するまでの間，存続する。
イ　無名又は変名の著作物の場合は，その著作物の公表後７０年を経過するまでの間，存続する。
ウ　共同著作物の場合は，その著作物の公表後７０年を経過するまでの間，存続する。

問１７

ア～ウを比較して，特許協力条約（ＰＣＴ）の利点に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　ＰＣＴ締約国のいずれか１カ所の所定の管轄受理官庁に所定の要件を満たす出願をすれば，国際出願日が認められる。
イ　締約国で登録された特許権について，国際事務局を通じて一元管理できる。
ウ　保護を求める締約国における審査が，希望する１カ国で統一して行われる。

問１８

ア～ウを比較して，意匠法上の実施権等に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　意匠権が共有に係る場合，自己の持分については，他の共有者の同意がなくても譲渡することができる。
イ　意匠権者は，重複する範囲について複数人に，通常実施権を許諾することができる。
ウ　意匠権者は，登録意匠に類似する意匠について，専用実施権を設定することができる。

問１９

ア～ウを比較して，著作権法に規定する目的に関する次の文章の空欄［ 1 ］～［ 2 ］に入る語句の組合せとして，最も適切と考えられるものはどれか。

著作権法は，「著作物並びに実演，レコード，放送及び有線放送に関し［ 1 ］の権利及びこれに隣接する権利を定め，これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ，［ 1 ］等の権利の保護を図り，もって［ 2 ］に寄与すること」を目的としている。

ア　［ 1 ］＝著作者　［ 2 ］＝文化の発展
イ　［ 1 ］＝著作者　［ 2 ］＝産業の発達
ウ　［ 1 ］＝著作権者　［ 2 ］＝文化の発展

問２０

ア～ウを比較して，育成者権の侵害に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　登録品種の名称を育成者権者に無断で使用する行為は，育成者権の侵害となる。
イ　登録品種の種苗を育成者権者に無断で業として生産する行為は，育成者権の侵害となる。
ウ　農家が登録品種に係る収穫物の一部を次の作付けの種苗として使用する行為は，育成者権の侵害となる場合がある。

問２１

ア～ウを比較して，弁理士の業務に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　弁理士は，商標権についての売買契約の締結の代理をすることができない。
イ　弁理士は，自己が出願について代理した特許権に限り，単独で特許権のライセンス契約に関する交渉の代理人になることができる。
ウ　弁理士が所属する法人である弁理士法人は，その法人名義で特許出願の代理をすることができる。

問２２

ア～ウを比較して，商標法に規定されている制度に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　延長登録制度
イ　登録異議申立制度
ウ　出願公開制度

問２３

ア～ウを比較して，職務著作に係る著作物（プログラムの著作物を除く）の著作者が法人等になる場合の要件として，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　法人等が従業者に対価を支払うこと
イ　法人等の発意に基づき，その法人等の業務に従事する者が職務上作成すること
ウ　法人等が自社の名義の下に公表すること

問２４

ア～ウを比較して，特許法における発明者として，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　未成年者
イ　一般財団法人
ウ　異なる企業に勤務する複数の従業者

問２５

ア～ウを比較して，著作権法上の引用に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　他人の著作物を引用して複製する場合，引用する側が従，引用される側が主とならなければならない。

イ　他人の著作物を引用して複製する場合，公正な慣行に合致するものであれば，引用箇所を明確に区別する必要はない。

ウ　他人の著作物を引用して複製する場合，その著作物の出所を明示する必要がある。

問２６

ア～ウを比較して，商標法上の商標に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　商標とは，自分の商品やサービスを特徴づけ，他人が提供している他の商品やサービスから区別するために用いられる記号やマーク等をいう。

イ　商品とは，商取引の目的となる物をいう。

ウ　サービス（役務）とは，商取引の目的を問わず，他人のために行う労務をいう。

問２７

ア～ウを比較して，拒絶理由通知を受けた特許出願人の対応として，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　不服審判を請求する。

イ　特許出願を分割する。

ウ　手続補正書を提出する。

問２８

ア～ウを比較して，意匠登録の要件に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　創作非容易性
イ　識別力
ウ　新規性

問２９

ア～ウを比較して，不正競争防止法に関して，最も適切と考えられるものはどれか。

ア　不正競争防止法は，不正な競争が行われることを防止して，文化の発展に寄与することを目的とする。
イ　不正競争防止法には，差止請求できる権利が規定されるとともに，罰則についても規定されている。
ウ　不正競争防止法における不正競争の定義は，パリ条約における不正競争行為の定義と同じである。

問３０

ア～ウを比較して，著作者人格権に関して，最も**不適切**と考えられるものはどれか。

ア　著作者人格権の享有には，いかなる方式の履行をも要しない。
イ　著作者は，著作物の原作品に，実名ではなく変名を著作者名として表示することができない。
ウ　著作者人格権は，相続の対象とならない。

【第46回知的財産管理技能検定】
【3級学科】
番号　正解
問1　イ
問2　イ
問3　ア
問4　ウ
問5　ウ
問6　イ
問7　イ
問8　ウ
問9　ウ
問10 ア
問11 イ
問12 ア
問13 ウ
問14 ウ
問15 ア
問16 ウ
問17 ア
問18 ア
問19 ア
問20 ア
問21 ウ
問22 ア
問23 ア
問24 イ
問25 ウ
問26 ウ
問27 ア
問28 イ
問29 イ
問30 イ